



地域の園芸振興と食育に貢献しています

指導農業士 渡邊正彦 氏（大崎市）

渡邊氏は、施設なす7a、水稻8ha、大豆6.2haを経営しています。就農とともに施設なす栽培を開始し、現在まで技術の研鑽に努め、植物性の土壌改良資材による土作りや高畝、土壌診断結果に基づいた施肥管理により、毎年10a当たり収量が10t以上、株当たり収量が10kg以上と部会員の中でもトップクラスの収量を上げています。

地元JA古川のなすは地域振興作物として重要な園芸品目ですが、なす部会では会長を務め、55名の部会員をリードしています。

土地利用型作物については、農地中間管理事業を活用し規模拡大を図るなど、地域農業の担い手としても重要な役割を果たし、環境保全米栽培に取り組んでいるほか、大豆でも平均収量が10aあたり250kgという多収栽培を実現しています。

地域では、地区の営農組合、認定農業者連絡協議会、西荒井上農地維持部会会長を務めるなど、地域農業の維持発展に貢献しています。

また、JA古川の青年部の活動も精力的に行っており、近隣の幼稚園児を対象とした子ども農業体験や大崎市立古川第五小学校の児童を対象に稲作の農業体験を行うなど、地域の食育活動にも熱心に取り組んでいます。